

平成29年度前期 学群(学部)教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群(学部)
学群(学部)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群(学部)で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、昨年度から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課題	継続：授業評価の回答率が30～50%と前年に比べ向上したが、以前の紙ベースでの回答率に比べるとかなり低い。さらなる改善が必要である。
	理由	教員へのヒアリングの結果、講義最終回に時間を取ってコンピュータラボで授業評価を行うよう指示はしているが、実施に至っていないことが理由と考えられる。
②	課題	継続：座学講義科目の予習・復習など授業外の学修が相変わらずなされていない。
	理由	学生の自発的な予習・復習意欲が低調な理由として、予習・復習まで必要が無いと判断している学生が多いのではないかと。すなわち予習・復習が必要な講義手法となっていない可能性がある。
③	課題	継続：授業評価アンケート結果より、授業の理解度が未だ進まない学生が少なからず存在しており、改善すべき重点課題であると考ええる。
	理由	②の予習・復習も行えていないことから、予習・復習以前の問題で基礎学力が身に付いていない可能性が高い。すなわち高校レベルの学修ができていないことが考えられ、高大接続の重要性が再認識させられた。
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。		
①	本課題については、1月の教員会議や教授会、学類会議で情報の共有化をまずは図る。対策として、授業時間内(14回目、15回目)での実施、コンピュータラボではなく、講義室において自身の携帯やパソコンで回答するよう、学群・研究科の教務委員会を通じて周知する。また、アンケートのコメント記入の促進策についても同様に進める。	
	本課題については、1月の教員会議や教授会、学類会議で情報の共有化を図ると共に、後期授業内でのグループワークやLTD(Learning Through Discussion)を通じた課題発掘による授業外学修の定着実現、さらに宿題や小レポート等の活用、定期的な小テストや練習問題等の実施について、学群・研究科の教務委員会を通じて周知する。	
	本課題については、1月の教員会議や教授会、学類会等で情報の共有化をはかる。双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、まずはグループワーク、ピアサポートシステムについて学群・研究科の教務委員会を中心に講習会等を企画・実施する。さらに、関連科目間の講義内容の一貫性・連続性については、学群・研究科教務委員会を中心に確認作業を実施し、より学修効率の向上を実現する。	

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
「講義の予習箇所のポイントを周知する」、「コメントカードを活用し、次の授業にフィードバックすることで学修を深める」、「講義資料を事前配布することで予習に一定の効果が認められる」、「討論形式の授業を増やすことで事前学習への意欲を高める」、「講義後に宿題をし、次回、小テストを実施することで基礎力が身に付く」など	
2-(2). 上記の事例を学群(学部)の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。	